

vol.

109

2022

10/28 発行



いちのへ社協だより

ゆいっこ



CONTENTS

令和4年8月3日の大雨災害			
一戸町災害ボランティアセンター活動報告	2～3	つながる地域つなぐとて Part11	10
めおと長寿祝 2022	4～7	社協からのお知らせ	11
できごとフラッシュ	8～9	Topics	12

題号 "ゆいっこ" は、古くは若者たちによる共同農作業という素朴な集団の呼称として使われていましたが、この互助精神が福祉の精神そのものと思い、社会福祉協議会広報の題名にしました。



小繫地区を拠点に開設された一戸町災害ボランティアセンター

活動概要

- 開設期間** 令和4年8月8日(月)から8月31日まで(お盆を除く)20日間
- 開設場所** 岩手県二戸郡一戸町小繫字東田子2-2(旧産直里やま市場)
- ボランティア数** 延べ378名
- 依頼件数** 30件
- 活動件数** 19件(うち未完了4件/令和4年10月1日現在)
- 活動内容** 泥や土砂のかき出し、家財の搬入出、床下の泥出しや消毒など

災害ボランティアセンターが閉所する8月31日には、実際に大雨災害で被災した方の自宅で、浸水家屋の対応講習会(主催:いわてNPO災害支援ネットワーク/NPO法人いわて連携復興センター)が開催され、関係機関や地域の民生委員、ボランティアなど26名が参加し、これからの水害に備えた知識を深めました。

これからに備える、取り組みのはじまり



8月31日に開催された浸水家屋の対応講習会

今回の大雨災害を通して、本会を含め町内関係機関、また住民の皆様の災害や災害ボランティアに対する意識に大きな変化があったと感じています。これからも災害に備えた平時の取り組みを進めていきたいと感じています。

これまでボランティア参加だけではなく、多くの企業や個人の皆様から災害ボランティアセンター運営のための支援物資、支援金のご提供をいただきました。

開設期間中のすべてのご支援、ご協力に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

県内外から350人を超えるボランティアが参加

被災直後から、地元の自治組織など地域のコミュニティによる被災された方々への支援が行われていました。それと同時に地域の民生委員による支援ニーズ把握が開始され、その後8月7日より二戸管内を中心にボランティア募集が始まりました。

8月8日からは、ボランティアによる泥や土砂の撤去などの活動が開始され、開設期間中20日間で延べ378名のボランティアに参加協力していただき19件のご依頼に対応することができました。

開設期間中に完了できなかったご依頼については、いわてNPO災害支援ネットワークと一戸町社会福祉協議会が連携し引き続き対応を行うこととしています。

災害ボランティア活動(床下の泥のかき出し)の様子



令和4年8月3日に発生した大雨災害により、一戸町においても小繫地区を中心に甚大な被害もたらされました。この度の災害によりお亡くなりになられた方のご冥福を心からお祈りするとともに、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。



活動報告

令和4年8月3日の大雨災害

令和4年
8月8日
▼
8月31日

小繫地区を拠点に災害ボランティアセンター開設

一戸町社会福祉協議会では、8月8日、被害が大きく予想された小繫地区に災害ボランティアセンターの拠点を設置し、被災された方々に対するボランティアを中心とした支援活動に取り組んできました。

災害ボランティアセンターは、一戸町と一戸町社会福祉協議会に、岩手県社会福祉協議会、二戸地区社会福祉協議会、二戸地区社会福祉協議会連絡会、いわてNPO災害支援ネットワークが加わった広範囲な協力体制のもと、支援ニーズの把握、ボランティアの受け入れや送迎、資機材の調達、情報発信などの運営を行いました。



駅前 小野寺 研一様(84歳) 淳子様(78歳)



西法寺 上村 勝美様(83歳) 和子様(78歳)



中田 川又 博様(82歳) ヒロ子様(78歳)

一戸町社会福祉協議会では、ご自宅で健康に暮らす78歳以上のご夫婦を対象に、記念品(記念写真又は商品券)を贈呈しています。今年度は総勢52組のご夫婦に贈呈させていただきました。その中で記念写真撮影をされたご夫婦をご紹介します。

※順不同で掲載させていただきますのでご了承ください。



関屋 片野 忠助様(86歳) 孝子様(78歳)

めおと 長寿祝

2 0 2 2



小井田 平船 猛様(78歳) 朋子様(78歳)



関屋 古館 英三様(85歳) 貞子様(78歳)



稲荷 鈴木 四郎様(78歳) 京子様(78歳)



西法寺 山火 敬三様(83歳) 征子様(78歳)



横町 竹澤 勝榮様(80歳) トヨ様(78歳)

めおと 長寿祝
2022



奥中山4 江藤 太郎様(82歳) 久子様(78歳)



奥中山1 中島 邦雄様(81歳) ツナ子様(78歳)



田中 遠藤 喜代志様(81歳) ミサ様(78歳)



旧中山 釜石 富次郎様(89歳) カヨ子様(78歳)



摺糠 久保 勤四郎様(79歳) ミキ様(78歳)



奥中山1 石木 末次郎様(79歳) 吉子様(78歳)



平糠4 雲足 勝雄様(80歳) 梅子様(78歳)



宇別 西館 林男様(78歳) 淑緒様(79歳)



摺糠 遠藤 市朗様(86歳) イシ様(78歳)



奥中山1 大矢 忠信様(86歳) 絢子様(78歳)



侍村 藤田 嘉亮様(83歳) 梢様(78歳)



熱気に溢れる いきいきシニアスポーツ大会

9月9日、町民文化センター体育館で、第45回一戸町いきいきシニアスポーツ大会(主催：町老人クラブ連合会、町社会福祉協議会)が約3年ぶりに開催されました。

準備体操を十分に行い、競技がスタート。ボール、風船、ラケット、様々な道具を使った競技は白熱し、応援にも力が入ります。優勝争いは最後の最後まで繰り広げられ、先の読めない展開にドキドキしながら結果を待っていました。

結果は1位中田長寿会 A45点、2位奥中山平成会 41点、3位駅前諏訪野健寿会 35点となりました。来年も老人クラブの皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。

- 1 優勝旗を掲げる中田長寿会。おめでとうございます！
- 2 真剣な眼差しで競技にのぞむ参加者のみなさん。



認知症にやさしいまち いちのへオレンジ月間2022

9月21日の世界アルツハイマーデーを記念した「いちのへオレンジ月間2022」では、主に小鳥谷地区センターを会場に、9月8日にVR認知症プロジェクト、10月1日には認知症見守り声かけ訓練を実施しました。

VR認知症プロジェクトでは地域住民など41名が受講し、VR(バーチャルリアリティ)を用いた体験講座で認知症への理解を深めました。

その後開催した認知症見守り声かけ訓練には地域住民や関係機関など64名が参加し、万が一大切な人が行方不明になったときのことを想定した対応方法や声かけの仕方について実践を交えて学びました。

参加者は、見知らぬ人に声をかけることに緊張しながらも、日頃から声をかけ合うことの大切さを感じ取っていました。

- 1 認知症当事者の声を参考に作られたリアルな映像のVR体験。
- 2 講義で聞いたことを意識しながら行った声かけ訓練。

一戸南学童クラブ 自然とのふれあいを大切に



虫とりをする子どもたち。ゴマダラカミキリムシを捕まえました。

学童の周りの木々から聞こえてくる鳴き声を頼りに虫とりあみと虫かごを手に取り、セミ取りに夢中になった夏休みも終わり、季節は夏から秋へ移り替わりました。近頃はトンボ、バッタ、カマキリ、コオロギなど秋の虫探しに夢中です。

季節の変化を体で感じながら、寒さに負けず元気に外遊びを楽しんでいる子どもたちです。

身近な自然に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方、命の大切さを学んでほしいと思っています。

奥中山学童クラブ 元気いっぱい なぎなた体験



なぎなた体験の様子。

奥中山学童クラブでは夏休みの期間を利用し、奥中山地区公民館でレクリエーションとなぎなた体験を行いました。

レクリエーションでは、ユニホックやドッチビーで体を動かしました。その後のなぎなた体験では、実際になぎなたを使って動き方や作法を教してもらい友達と体験をしながら楽しむ事ができました。

これからも全身を使った運動やレクリエーションを取り入れ、健康で逞しい子どもたちの成長を応援していきたいと思ひます。

「障がいは特別ではない」 一戸高校、 カナンの園ふれあい体験学習

一戸高校介護・福祉系列の2年生4名は、10月5日、社会福祉法人カナンの園(理事長齊藤芳弘)とのふれあい体験学習を実施しました。

この事業は、町内の児童生徒が障がい福祉に触れ理解を深めること、また福祉現場での就労を円滑に支援することを目的とし、毎年町内社会福祉法人の協力のもと本会が企画運営を行うものです。

参加した生徒は、講義の他全5か所の施設を見学し、個性や多様性を重視し地域とのつながりを大切にした支援方針に触れ、特に人間関係の構築の仕方に興味を示し「もっと障がい福祉について学んでみたい」と意欲を示していました。

- 1 今年夏に完成した三愛学舎の新校舎見学。
- 2 全国的に有名なパン工場「カナン牧場」。障がいがある人もない人も共に働く。



生活福祉資金教育支援資金のご案内

低所得世帯等を対象に、高校、大学、短大、専門学校への就学に際し必要な経費として、授業料や通学費用等就学に必要な経費を無利子で貸与する制度です。詳しくは下記までお問合せください。

資金の種類と内容

種類	用途内容の例	貸付限度額	据置期間	返済期間	貸付利子
教育支援費	学校教育法に規定する高等学校、大学、高等専門学校に就学するのに必要な経費	高校 月額 35,000 円以内	卒業後 6ヶ月以内	20年以内	無利子
		高専 月額 60,000 円以内			
		短大 月額 60,000 円以内			
		大学 月額 65,000 円以内			
就学支度費	学校教育法に規定する高等学校、大学、高等専門学校に就学するのに必要な経費	500,000 円以内			

必要書類：借入申請書、住民票、世帯の所得が分かる書類（所得証明書、給与明細書、年金証書等）合格通知書または在学証明書、就学費が分かる書類など

問い合わせ：一戸町社会福祉協議会（TEL 0195-33-3385）

令和5年度一戸町社会福祉協議会職員（一般事務、正規職員）の募集について

一戸町社会福祉協議会では、地域福祉事業に関する活動や相談業務等に携わる令和5年度採用職員（一般事務、正規職員）を募集します。

採用人数：1人

資格等：学歴、年齢不問

以下のいずれかの資格を有する者または受験資格を有する者（社会福祉士、介護支援専門員、介護福祉士）

給与：161,900円～

募集期間：令和4年10月20日（木）～11月18日（金）当日消印有効

申込方法：必要書類（応募申込書、紹介状、資格証明書等）を、期限内に問合せ先までご提出ください。

詳しくは、本会ホームページをご覧ください。

問い合わせ：一戸町社会福祉協議会（TEL 0195-33-3385）



表紙の紹介



9月18日（日）に鳥海小学校体育館で行われた中里敬老会の様子。敬老会では演芸大会も行われ、歌や踊りで会場は大いに盛り上がりました。

鮮やかな衣装や踊りが、皆さんの美しさをより一層引き立て、歌い手の笑顔に見ているこちらまで笑顔になってしまうようでした。

災害ボランティア募集のお知らせ

一戸町社会福祉協議会では、災害ボランティアセンター開設期間中に完了できなかったご依頼について、いわてNPO災害支援ネットワークと連携し引き続き対応を行っています。

それに伴い、床下の清掃、消毒作業等を行って頂く災害ボランティアを募集しています。

お申し込み、お問合せは、下記いわてNPO災害支援ネットワークホームページ及び公式LINEのQRコードをご確認ください。

ホームページ



公式LINE



令和4年6月19日に行われた西法寺コスモス会30周年記念祝賀会での1枚。

つながる地域
つなぐて・とて
part 11

西法寺コスモス会

かつて一戸では当たり前だった活気ある地域づくり。誰もが自然に手を差し伸べ合い、助け合える地域づくり。そんな光景を再び一戸に取り戻したい…。社会福祉協議会は、住民が手と手を取り合い支え合う地域づくりの実現を目指しています。

このページでは、町内の住民主体の活動によって地域が元気になり「つながり」が生まれていく様子をシリーズで紹介していきます。



22年にも亘り継続してきた御所野縄文公園の環境整備活動。昨年7月の世界遺産登録での喜びはひとしおでした。

西法寺コスモス会（柿木洋子会長）は、「地域のために何かできることはないか」と平成6年にその地域に暮らす女性たちが集い設立したボランティア団体です。活動期間は、実に30年。活動内容は、地域の福祉バザー企画運営やピアガーデンへの協力など町内会と密着した活動から御所野縄文公園の環境整備など多岐に亘ります。

地域でとれた野菜や果物の販売、食堂の運営から古着の販売まで一から自分たちで行った福祉バザーは、毎年11月に公民館で開催。収益金を、町社会福祉協議会へ寄付した実績は11年にも及びます。

地道なボランティア活動
30年間の軌跡

多年草「コスモス」の名前の通り、年月をかけて地域に根付き毎年賑やかに咲き誇った西法寺コスモス会。令和3年の30周年を機に、解散する

組織を超えた仲間の絆
これからもいつまでも

が可能になりました。この組織体制で、みんなに目が行き届き一体感のある活動が可能になりました。

設立当初の会員は42名と大規模なボランティア団体でしたが、柿木会長が大切にしていたのは「疎外感なく、誰も取り残さないこと。」会員を6つのグループに分け、グループにリーダーを置きました。リーダーはグループの会員に気を配り、それでも上手くいかないときは柿木会長が動く。この組織体制で、みんなに目が行き届き一体感のある活動が可能になりました。



平成6年に開催された福祉バザーの様子。子どもから高齢者までたくさんの人で賑わい、地域に愛された活動でした。



ことを決めました。解散を惜しむ声があった一方、組織編成を変えてまで西法寺コスモス会を継続することを望まなかった会員の皆さん。組織の活動を通じてつながりあった会員の絆は、いつしか組織を超えて会員1人1人の強い絆になりました。解散しても切れることはない仲間の絆。その絆は普段の暮らしの中でこれからもずっと続いていく。――

会員相互のつながり合い、絆の醸成という大義名分を果たし、西法寺コスモス会は長い歴史に幕を閉じました。解散後の今も、普段のお茶会や困ったときの助け合い、支え合いは続いています。

西法寺地域に根付いたコスモス。いつかまた新しい芽が出て花が咲く日が来るように、この活動を語り継いでいきたいと思います。

各種相談日程表

	法律相談	多重債務相談	くらしの相談窓口	ふれあい相談
開催日	11月8日(火)、11月22日(火)	11月15日(火)	月曜日～金曜日 (土日祝祭日・年末年始休み)	月曜日～金曜日 (土日祝祭日・年末年始休み)
	12月13日(火)、12月27日(火)	12月20日(火)		
	1月10日(火)、1月24日(火)	1月17日(火)		
	2月14日(火)、2月28日(火)	2月21日(火)		
時間	10:00～15:00	10:00～15:00	8:30～17:15	8:30～17:15
場所	二戸消費生活センター (二戸合同庁舎内) TEL 0195-23-5800※要予約		二戸市総合福祉センター TEL 0195-43-3588	一戸町社会福祉協議会 (一戸町総合保健福祉センター内) TEL 0195-33-3385

寄付御礼

(令和4年7月～令和4年10月取扱分)

一戸町社会福祉協議会への寄付

- ◆西館保健サービス(有)様
金 10,000円 也
- ◆岩手県立福岡高等学校
家庭クラブ様
金 3,634円 也



岩手県立福岡高等学校家庭クラブ様

頂きましたご寄付は、災害ボランティアセンター運営や災害に備えた取り組みに活用させていただきます。

一戸町社会福祉基金への寄付

- ◆西法寺コスモス会様
金 8,744円 也
- ◆一岩会様
金 30,000円 也



西法寺コスモス会様

頂きましたご寄付は、地域福祉事業の推進のため活用させていただきます。ありがとうございました。

災害義援金募集のお知らせ

社会福祉協議会では、被災された方々を支援するための義援金を次の通り受付しております。頂いた義援金は岩手県共同募金や日本赤十字社岩手県支部を通じて全額被災地の方々へ届けられます。皆さまのご協力をお願いいたします。

- ・ウクライナ人道危機救援金
(受付期間：令和5年3月31日まで)
- ・令和4年8月3日からの大雨災害義援金
[山形、石川、新潟、福井]
(受付期間：令和5年3月31日まで)

その他、各種国外義援金、救援金についても受付しております。一戸町社会福祉協議会(TEL 0195-33-3385)までお問い合わせください。

〈お詫びと訂正〉

令和4年7月22日発行の「いちのへ社協だよりゆいっこ vol.108」9ページにつきまして、次の通り誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

【誤】土川ミヨ様 【正】土川タヨ様



読者プレゼント

本誌への感想や当協議会への意見など、アンケートに答えていただいた方の中から抽選で3名の方に一戸町の特産品(1,000円相当)をプレゼントします。

応募を希望される方は、①住所②氏名③年齢④電話番号⑤本誌への感想や当協議会に対する意見などを明記の上、はがきまたはメールにて編集係までお送りください。発表は、発送をもって替えさせていただきます。

応募方法

▶ はがき

〒028-5312 一戸町一戸字砂森93-2
一戸町社会福祉協議会「広報ゆいっこ編集係」

▶ メール

ichinohe-shakyo@themis.ocn.ne.jp

編集後記

厳しい日差しの夏はもう過ぎ去り秋を飛び越してしまいそうな寒さとなりました。体調など崩れていませんか。この夏は大雨による災害ボランティアセンターを立ち上げ、地域を駆け回った目まぐるしいひと月となりました。被害に遭われた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。そのような中、めおと長寿祝やシニアスポーツ大会の取材に同行し、パワフルさときらきらした笑顔にたくさん元気を貰えたことが今夏の私の素敵な思い出です。これからも寒さに負けず広報の取材にお邪魔したいと思います。取材情報がありましたらぜひお声がけください。(高橋)

社会福祉法人

一戸町社会福祉協議会

〒028-5312 一戸町一戸字砂森93-2
(一戸町総合保健福祉センター内)
TEL 0195-33-3385
FAX 0195-33-2737
ホームページ
<https://ichinohe-shakyo.jp/>

